

開館30周年記念
秋の特別企画展

山田千代子 万葉衣装展

越中国守大伴家持
令和の典拠となった
「梅花の宴」に集う官人たち
いにしえの万葉びとの装いが
美しい倭歌と共に魅ります

会期 令和2年 9月2日(水)～11月30日(月)

※火曜日休館

※8月31日(月)・9月1日(火)は展示替えのため休館

※9月22日(火・祝)は開館、23日(水)は休館

※11月3日(火・祝)は開館、4日(水)は休館

高岡市万葉歴史館
〒933-0116
富山県高岡市伏木二宮1-11
電話 0766-44-5511
FAX 0766-44-7335
<https://www.maneki.com>

●開館時間

4月～10月 午前9時～午後6時
11月～3月 午前9時～午後5時
※入館は開館の45分前まで

●観覧料

一般 300円
中学生以下 無料
65歳以上 240円
団体(20名以上) 240円



高岡市万葉歴史館

開館30周年記念
秋の特別企画展

万山 葉園千代子 衣装展

会期 令和2年9月2日(水)～11月30日(月)

※火曜日休館

※8月31日(月)・9月1日(火)は展示替えのため休館

※9月22日(火・祝)は開館、23日(水)は休館

※11月3日(火・祝)は開館、4日(水)は休館

本年度高岡市万葉歴史館は開館30周年を迎えます。それを記念し、古代衣装研究家の山口千代子氏に全面的な協力をいただいた特別企画展を開催します。

柿本人麻呂が活躍した藤原京時代から、聖武天皇・光明皇后の天平時代、大伴家持の父・大伴旅人が開催した令和の典拠となった「梅花の宴」など、それぞれの時代に生きた万葉びとの衣装を、珠玉の万葉歌と共に展示します。

万葉の歌世界の時間・空間の広がりを感じていただければと思います。

なお、大正末から昭和初期にかけて正倉院宝物の修理と模造製作にたずさわった工芸家の吉田包存(よしだ・ほうしゅん)による「子目利箒(ねのひのめどきのほうき)」「儀礼用の箒」とその台「粉地彩絵筒(ふんじさいえのいき)」など、今回初展示となる正倉院宝物の複製品も衣装と共にご覧ください。



開館30周年記念 2020高岡万葉セミナー

「万葉の受と中」
万葉集が様々な人々にどのように受け止められたか語って頂きます。

なりました
●田中教子氏(歌人)

9月5日(土) 受講料3,000円(学生1,000円)

交通のご案内

◆最寄り駅JR氷見線 伏木駅から

【当館までの距離 約1.5km】タクシーで約5分、徒歩約25分

◆JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅から

【バス】高岡駅前(北口)バスのりば④

加越能バス伏木方面(西回り)・伏木方面(東回り)のいずれかに乗車(約30分)し「伏木の宮バス停」で下車、徒歩約7分

【タクシー】約20分

※「北陸新幹線 新高岡駅」と

「JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅」の間は、10分間隔でバス便があります。(所要時間約10分)

◆お車で

【能越自動車道】高岡北インターから約20分、高岡インターから約25分

【北陸自動車道】小杉インターから約35分、高岡砺波スマートインターから約35分



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮 1-11-11

電話 0766-44-5511 FAX 0766-44-7335

E-Mail: manreki@takaoka-bunka.com

https://www.manreki.com

歴史館の最新情報、日々の出来事はツイッターで 家持くん@manreki いけぬし君@ikenushi おおいらつめちゃん@oiratsume 万葉人・高岡市万葉歴史館館長@akahitomusimaro